



2024. 11 No. 104

- ・シマフクロウを育む国有林（計画課）
- ・造林作業の省力化への取組（網走西部森林管理署西紋別支署）
- ・こんにちは森林官です！（奥主夕張森林事務所）
- ・若手職員のコーナー（根釧西部森林管理署）
- ・センター通信（釧路湿原森林ふれあい推進センター）



林野庁



北海道森林管理局



シマフクロウを育む国有林



計画保全部計画課

【シマフクロウって?】

シマフクロウは元々、北海道全域に加え、樺太や千島列島南部に生息していました。しかし、その後、営巣のための広葉樹の巨木が減少し、採餌環境も悪化していったことから、年々その生息数が減少していきました。このため、現在、北海道内ではシマフクロウは、道東を中心とした一部の地域にしか生息していません。

英語名でFish owl（魚ふくろう）と名付けられているとおり、シマフクロウは主として魚を捕食しています。このため、シマフクロウが生息していくためには、淡水魚が多く生育できるような河川（溪流）環境が必要になっています。

シマフクロウが営巣するためには、直径100cm以上の広葉樹の巨木の洞が必要です。また、子育てにも大量の淡水魚の餌が必要となってきます。このような条件を満たした生息環境の減少が生息数を減らしてきた主な要因です。

その他、カメラ撮影をはじめとする人為由来のストレスや、ヒナの時期にエゾクロテンに襲われることも、生息数が回復しにくい要因として挙げられます。

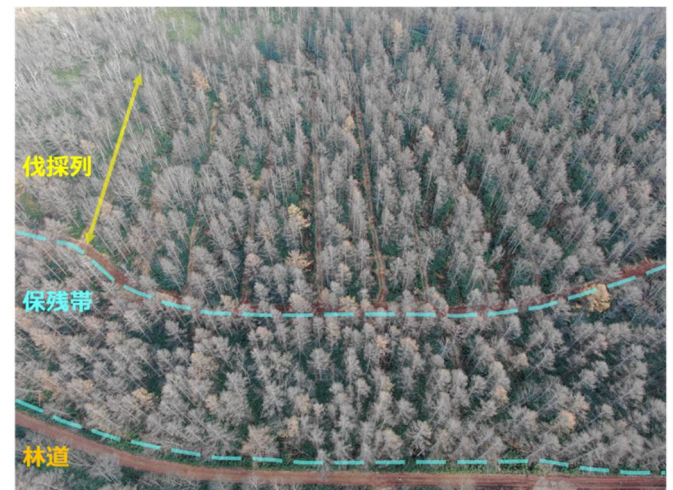
【北海道森林管理局の取組】

北海道森林管理局は1993年から、有識者や関係機関と連携しながら、国有林でのシマフクロウの保護増殖に取り組んでいます。具体的には、シマフクロウが生息する天然林の保護や人工林の間伐を進めたり、魚類の移動が容易になるよう河川（溪流）工作物を改良したりすることで、採餌環境の改善に努めています。また、将来的に営巣木とな

るような広葉樹の保全・育成に努めるとともに、巣箱の設置を進めることで、営巣環境の創出に取り組んでいます。

【シマフクロウに配慮した森林施業】

シマフクロウの生息する国有林において、その生息に配慮した森林施業に取り組んでいます。



例えば、林道沿いの立木を保残する（保残帯）ことによって、シマフクロウが林道に近づかないようにして、車両との衝突を回避するよう工夫しています。

【給餌池の設置】



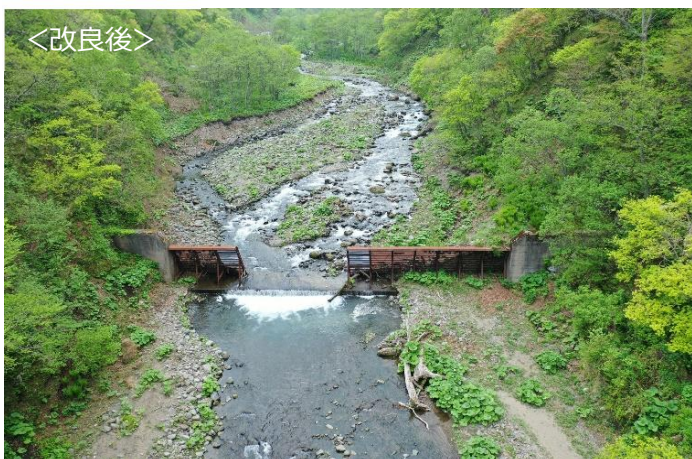
シマフクロウに配慮した森林施業を模索する中で、生息する周辺環境も併せて整備する必要があることから、専門家の意見を聴いた上で、給餌池の設置に取り組んでいます。上流にあるダムの水量調節により冬季の河川が凍結しやすい環境にあった箇所に、凍結しない給餌池を設置したことにより、シマフクロウの採餌環境を創出する取組を進めています。

【サケ科魚類の遡上環境の整備】

＜改良前＞



＜改良後＞



サケ科魚類の自由な移動ができるよう河川工作物を改良し、遡上環境を整備しています。写真のダムの改良は、アクセス道路がなく重機を入れることができないため、職員も参加し、人力で徐々に切り下げました。こうした取組を通じて、シマフクロウの採餌環境が改善されていくことが期待されます。

【巣箱設置】

次の写真は、シマフクロウの巣箱を職員が設置する様子です。シマフクロウは天然木の太い樹洞に巣に利用します。このような大きさに木が成長するまでの間、巣箱が必要となってくるため、国有林でも設置場所を提供しています。巣箱の設置

は、専門家の意見を聴いた上で取り組んでいます。

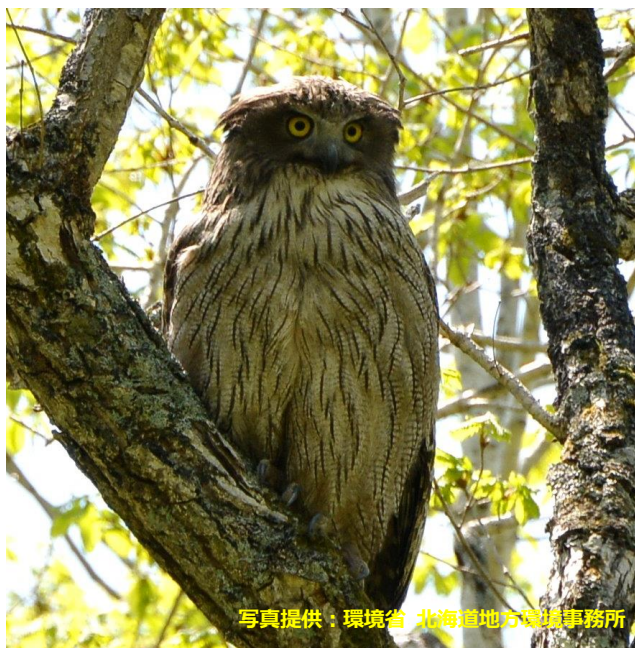


写真提供：環境省 北海道地方環境事務所

【おわりに】

皆さんに広く国有林の取組を知っていただくため、令和6年秋に「シマフクロウシンポジウム」や「シマフクロウシンポジウムパネル展」を開催しました。

現在、北海道内には概ね100つがいのシマフクロウが生息しています。今後とも、シマフクロウが生息する豊かな森林生態系づくりに取り組んでいきます。



写真提供：環境省 北海道地方環境事務所

地域課題の解決に向けた取組

造林作業の省力化への取組

網走西部森林管理署西紋別支署

【はじめに】

網走西部森林管理署西紋別支署が管理経営する国有林野は、滝上町と紋別市に広がる約 8.4 万ヘクタールで、主に天塩岳を源とする渚滑川流域に位置しています。

紋別市元紋別地区には、オホーツク海から吹きつける塩分を含んだ強風や飛砂による気象害などを緩和するため、昭和 33 年頃より森林造成してきた海岸防災林があります。

昭和 48 年頃から海岸の侵食がはじまり、その後も土砂の流出や防風林の崩落などが激しくなってきたため、防潮護岸などの整備を進めています。



また、平成 19 年 12 月には、地域ニーズを踏まえ、当支署を含めた網走西部流域の国有林全域で SGEC 森林認証を取得しました。

【地域課題】

西紋別地区において、造林事業に携わる従事者の減少や高齢化は非常に深刻化しており、新たな人材の確保が難しい状況です。

そのため、この担い手不足解消のほか、造林事業の省力化、低コスト化を進めることは急務となっています。

【課題解決に向けた取組】

当支署では滝上町・滝上町森林組合・地元事業体などと協力をしながら、小学生を対象とした森林環境教育を継続的に行っております。

このほか、平成 28 年度からコンテナ苗を用いた低密度植栽により、造林作業の省力化・効率化へ向けた試験的な取組を進めてきました。地域の民有林関係者に対して、取組内容を月刊誌の作成・配布や森林施業に関する勉強会等を実施するなどして情報発信を行ってきました。

【今後の取組】

北海道森林管理局の重点取組事項の中で掲げられている「新しい林業」の実現に向けた取組を実践していきます。

伐採から再造林・保育までの収支を黒字転換するため、下刈機械の使用を前提とした低密度植栽を行い、その後のリモコン式機械を使用した下刈の様子を、見学会や継続的なモニタリング等を通じて管内森林組合や林業事業体など民有林関係者へ情報提供していきます。

低密度植栽や機械下刈等の技術が、民有林における保育作業省力化に向けた検討の一助となり、林業従事者の減少という問題を補うことができると考えています。



リモコン式機械の下刈

こんにちは 森林官です！

空知森林管理署 おくしゅ 奥主夕張森林事務所

地域統括森林官 増田 秀樹

【森林事務所の概要】

私が勤務する奥主夕張森林事務所は、北海道のほぼ中央、空知地方の南部に位置する夕張市に所在しています。

夕張市一帯は、夕張山地の豊かな森林や清流に育まれた丘陵で、夕張岳（1,668m）から流れる夕張川とその支流が市内のほぼ中央を貫き、流域に沿って帯状に街が形成されています。

管轄する国有林は「奥主夕張」、「夕張岳」、「南部」、「沼の沢」の4つのエリアで、面積は約3.6万ヘクタールととても広大です。

花の百名山・日本二百名山の夕張岳、日本で2番目に大きい人造湖シューパロ湖などの観光スポットがあります。

また、ユウパリコザクラ、ユウバリソウなど固有の植物が生育していることから、保護林に指定されている箇所もあります。



【森林事務所の主な業務】

管轄エリアが広大なことから、日常の林道巡視・境界確認なども行いながら、素材生産事業や造林

事業の監督業務、地林況調査、次年度以降の業務予定地の調査などを行っています。

今年度は、特に雨の当たり年らしく、局所的な豪雨が多かったので、頻繁に林道巡視を行うこととなりました。巡視のたびに林道の損傷した箇所を発見し、被害状況を調査するといった、忙しい日々を送っています。



【地域に根ざした国有林を目指して】

かつては、石炭の街として繁栄した夕張市ですが、その後は、閉山などによる人口流出といった課題がある現状ですが、市の森林面積の約90%を占める国有林には、地域の林業・木材産業の発展に寄与することが期待されています。

夕張市の森林面積やその蓄積は、とても膨大です。今後、いかに効率よく木材を市場に供給したり、また、木材に新たな付加価値を付けることができるか、綺麗な星空の下、何か良い案がないものかと考える毎日です。

疲れた時には、地元名産の夕張メロンで心身を整えたいと思います。

も り 森 林 の 話

第33話
根釧西部森林管理署
見付 亜那

若手職員のコーナーです

根釧西部森林管理署に着任し、気付けば1年半がたち、二度目の冬を迎えることになりました。元々関東圏にて暮らしていたため、慣れない冬道運転に戦々恐々としている今日この頃です。

私は、署内の資源活用という担当に配属されており、国有林内での伐採作業や丸太の販売を行う業務に携わっています。今回は、その業務を行う中で特に印象に残っていることや勉強になったことなどを紹介したいと思います。

【地理情報システムの活用】

当署では、地理情報システム、いわゆるGISを活用した事業運営を行っております。GISを簡単に説明すると、地図情報などの位置を持ったデータを操作することに特化した技術であり、山の地図（図面）の色分けや、山に付けた道（作業路）の管理などが一元的に行えるといったメリットがあります。特に昔付けた道や土場（丸太を山に置いておく場所）がどこにあるかというのが厄介で、これまでは紙の手書き図面のスキャンデータをばらばらのファイルで管理していたことから、新規事業設計の際に過去のデータを見直すことが手間になっていました。

そこで過去のデータをGIS上に落とし込み、事業実行の際には作設した道や土場を入力するだけで道の距離などの実行結果が出てくるようデータを作成しました。また、請負事業体の方々にも操作方法を受講してもらったことで、事業での進行管理や完了時に提出する実行結果図等がGIS上のデータでや



り取りが行えるようになり、事業設計から進行の管理、データの更新など一連の流れを一元的に管理しています。

【シマフクロウへの配慮】

ご存じの方も多いと思いますが、北海道には世界最大級のフクロウであり、アイヌの方々から神の鳥として敬われているシマフクロウが生息しています。

シマフクロウはかつて全道広域に1,000羽以上生息していましたが、開拓や開発行為に起因する生息域の激減により、一時は約70羽まで減少しました。その後の保護活動により、現在は約100つがいが確認されるまで回復しています。（現在、生息数は「つがい数」で公表されています。）

私の担当している管轄区内にも保護活動の一環で設置された巣箱や天然の営巣木など繁殖箇所が複数あり、専門家と同行して雛の標識調査や生息域の現地調査を行っています。実際に営巣が確認された場合は調査に同行し、その周辺で事業がある場合には専門家の方々と相談することで、営巣木から一定範囲の事業や営巣期間を避けるなど、シマフクロウの生息環境に配慮した事業運営を行っています。



【最後に】

私は、入庁まで林業にはあまり触れてこなかったことから、一から学ぶことが多く、とても充実した日々を送っております。最近は、林業における様々な作業において日々新しい技術が開発されてきているため、それらの情報収集や国有林への導入などについてチームで検討しています。



【当ふれあいセンターの活動】

北海道の東部に位置する釧路地方は、釧路湿原と阿寒摩周の二つの国立公園やラムサール条約登録湿地等、雄大な自然環境に恵まれた地域です。

釧路湿原森林ふれあい推進センターは、根釧西部森林管理署が管理経営する国有林を主な活動区域として、フィールドの特徴を踏まえて、

1. 森林環境教育
2. 地域との連携・普及啓発
3. 自然再生・生物多様性保全

の取組に重点を置き、教育関係者、ボランティア団体・地域住民、行政機関等の活動支援や技術指導を行っています。

【雷別^{らいべつ}ドングリ倶楽部】

雷別国有林（標茶町雷別）は、釧路湿原の源流部に当たり、自然環境を維持保全するうえで重要な場所に位置していますが、平成12年に高齢級のトドマツ人工林が気象害により立ったまま枯れ、笹地となった箇所が広がっています。当センターでは、この地域を多くの地元住民の参加を得ながら「広葉樹の森林」に再生することを目的として、平成19年7月に「雷別ドングリ倶楽部」を設立しました。



植樹活動の様子

【広葉樹の森林づくり】

令和6年6月には、第1回目の活動として「広葉樹の森林づくり」を行い、ミズナラ・ヤチダモ・カツラ・キハダを70本植樹するとともに、エゾシカやノウサギの食害から植栽木を保護するため保護管で被覆しました。

【自然観察】

令和5年度の秋の活動では、「自然観察」で国有林の森林整備箇所や多和平（標茶町）を訪れました。会員の方々は、森林整備の様子や360°広がる多和平の景色を堪能されていました。

今年度は、紅葉が深まる時期に、緑ヶ丘森林公園（中標津町）へ訪れる予定です。



令和5年度 森林整備箇所見学の様子

【おわりに】

「雷別ドングリ倶楽部」への参加は自由で、今年度は新規会員の方も多く、作業の合間やお昼休みには、樹木や山菜等について話題となるなど、会員同士の交流が盛んで、自分が植樹した苗木の成長を観察できることも貴重なことと思います。

当センターでは、この他にも多様な取組に努めており、これらの活動状況は随時、ホームページで更新していますので、是非、ご覧下さい。

各地からの便り



「各地からの便り」の詳細は

森もりスクエア

検索

「ぐるっと庶路ダム 紅葉ウォーク」に参加



【根釧西部森林管理署】



10月20日に、白糠町庶路ダム湖（GreenLake 庶路）において、スポーツの秋と紅葉を同時に楽しめる「第19回ぐるっと庶路ダム紅葉ウォーク」が開催され、当署からは署長をはじめ12名が参加しました。このイベントは、ダムが完成した翌年の2005年から実施されており、当日は、秋晴れの空の下、8歳～87歳までの213名が参加し、鮮やかに色づく木々を眺めながらダム湖を1周する13.2kmのウォーキングを楽しみました。

留萌ライオンズクラブ 主催の森林教室を開催



【留萌南部森林管理署】



10月17日に、留萌ライオンズクラブと当署が協定を締結している留萌市幌糠地区の国有林「チババリふれあいの森」において、森林教室「どんぐり作戦」が開催され、当署からは署長をはじめ10名が森林教室をサポートしました。カミネッコンを作成し、ミズナラ（ドングリ）の苗を植樹する「どんぐり作戦」には、留萌市立潮静小学校の3年生5名、4年生3名、教員2名のほか、留萌ライオンズクラブから7名が参加しました。

「コンサ百年の森」で 森林づくり活動のお手 伝い



【石狩森林管理署】



10月2日に、株式会社コンサドーレと当署が協定を締結している千歳市水明地区の国有林「コンサ百年の森」において、森林づくり活動が実施されました。千歳市立高台小学校の児童と教員、コンサドーレ社員と北海道コンサドーレ札幌バドミントンチーム選手、森林再生技術研究所及び当署職員に、ドーレくん（マスコットキャラクター）を加えた総勢40名（39名と1羽？）が参加し、カミネッコンを使用した植樹活動を行いました。

造林作業の省力化・ 効率化等に関する研 修会の実施



【十勝東部森林管理署】



10月10日に、一般社団法人北海道造林協会主催「造林作業の省力化・効率化等に関する研修会」が開催され、当署はフィールド提供とともに、研修会の運営に協力しました。本研修は、造林作業の省力化に向けた多目的造林機械とラジコン式下刈機の導入を目的に開催され、管内の造林請負事業体や森林組合、自治体の林務担当者、北海道森林管理局、当署及び近隣の森林管理署職員など総勢61名が参加しました。

広報 「北の森林 国有林」11月号
発行 林野庁北海道森林管理局
編集 総務企画部 企画課

〒064-8537

札幌市中央区宮の森3条7丁目70

電話 011-622-5213

HP <https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/>



【今月の花 コマクサ】

今月はコマクサの写真を表紙右下に掲載しました。花言葉は「高嶺の花」、「誇り」です。

道内各地では、もう降雪が話題となる寒い時期となりましたね。



今月の表紙